

令和元年度市民等からの提案によるごみ減量モデル事業 採択内容一覧

採択団体数9件, 助成総額 2,999,709円(助成種別・五十音順)

■先進的モデル事業助成(地域活動モデル)(1件)

団体名	株式会社 応用芸術研究所	代表者	代表取締役 片木孝治
事業名	地域・多世代連携で家庭内ストック問題をストックレスで解決するリユースモデルの開発 [交付金額 750,000 円]		
<p>家庭内に眠り、溢れている多くの物が及ぼす弊害(廃棄物予備軍・災害時障害物など=家庭内ストック問題)を解決するストックレスなりユースの地域連携モデル開発と共に、お片付けをテーマに、若者が主体となって高齢者と連携する持続可能な循環モデル開発を目指す。</p> <p>高齢者が、意思を持って持ち物を選択し、不要物をより良い形で手放す方法の選択肢を増やすため、フリマアプリ講習会などの実施を進めている。</p>			

■地域活動事業助成(8件)

団体名	北区地域ごみ減量推進会議	代表者	代表 山本玉幸
事業名	北区ECOまつり [交付金額 200,000 円]		
<p>住民へのごみ減量とエコに関する啓発を目的として、北区ECOまつりを開催。会場を12学区の輪番制で実施している。今回は、エコイズやプラスチック海洋汚染等に対する意識の高揚を図るDVD上映のほか、子ども向けには、自然エネルギー(太陽光発電)による卵焼き・目玉焼きづくりの取組などを実施予定。</p>			
団体名	京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会	代表者	会長 高橋かつ子
事業名	食品ロス削減に向けてのPR活動 [交付金額 330,000 円]		
<p>食料自給率が低く、世界各国からの輸入に依存している日本において、多くの食品ロスが発生している状況を、多くの皆さんに知ってもらおうとともに、一人ひとりが「もったいない」を心がけ、食品ロスの削減について考えられるような周知啓発を行う。</p>			
団体名	京都SKYおもちゃ病院	代表者	代表 泉谷隆信
事業名	おもちゃリフレッシュ増増満足事業 [交付金額 154,709 円]		
<p>修理依頼の増加とおもちゃの構造の複雑化に応えるため必要な修理器具を新たに購入する。これによって、修理の効率化、修理内容の質の向上を図り、修理を依頼する側・修理に当たる側双方の満足度を高め、ものを大切に使う精神の一層の涵養を図る。</p>			
団体名	一般社団法人 蛍光管リサイクル協会	代表者	代表理事 原 強
事業名	LEDのリサイクルの可能性を探る [交付金額 364,000 円]		
<p>近い将来、蛍光灯に代わり照明器具の主役になることが見込まれるLEDについては、現在、それが廃棄物になって排出されるとき、どのように回収・処理したらよいのか、ほとんど検討されていない。</p> <p>このようななかで蛍光灯の回収・処理を確実にを行うシステムを維持しながら、この数年間のうちにLEDの回収・処理システムを準備しなければならない。</p> <p>これらの事情をふまえ、協力団体・企業と連携しながら「LEDのリサイクル」研究会を設置し、実証的な調査研究を行う。</p>			
団体名	特定非営利活動法人 こどもアート	代表者	理事長 加藤ゆみ
事業名	まちごみをコミュニティづくりに活かす「ぐるりプロジェクト」 [交付金額 378,000 円]		
<p>GuRuRe:(ぐるり)とは、企業・工場などから出るごみを調査、回収し、子どもたちの遊びと学びに活用する企画。子どもたちが、環境意識を高めるとともに、創造的な生き方、くらし方を育むことを目的とする。</p> <p>メディア・コミュニティラジオの活用により、事業者や住民への取組周知と理解を促し、事業を継続的に発展させる仕組みづくりを行う。</p>			
団体名	特定非営利活動法人 セカンドハーベスト京都	代表者	理事長 澤田政明
事業名	“なくそう！食品ロス”キャンペーン [交付金額 500,000 円]		
<p>KBS ラジオから広く食品ロス削減を呼び掛ける“なくそう！食品ロスキャンペーン”のラジオスポットCMを制作・放送するとともに、期間中、様々な場所でフードドライブを実施し、食品ロス削減の啓発につとめる。また、食品ロス削減パンフを制作し、市内小中学校に送付、希望する学校では食品ロス削減授業を実施する。</p>			

団体名	Seeds of Sustainability Kyoto	代表者	チャールズ・ケイザー
事業名	生ごみ堆肥化プロジェクト		
[交付金額 133,000 円]			
<p>10～20 戸ほどの家庭から出る生ごみを集め、堆肥化することによって廃棄される生ごみを削減する。地域単位・町内単位で生ごみを回収し、自然の力で堆肥化させ、有機作物の肥料として活用することで、コミュニティ内でのごみ減量・資源循環のモデル事業を作る。取り組みの成果をブックレットにまとめ、各家庭や学校などに配布し、活動を広めていく。</p>			
団体名	桃山エコ推進委員会	代表者	委員長 大倉正暉
事業名	ごみ減量のエコ地域づくり～子育て世代・大学生との連携をめざして～		
[交付金額 190,000 円]			
<p>さまざまな地域活動の担い手が高齢化し、京都ならではの学区単位の地域活動は岐路を迎えている。そこで、他学区のごみ減量活動からも学びながら、若い世代・子どもたち・親子に訴求力のある環境教育プログラムを開発するとともに、大学生との連携を模索するべく、大学のゼミや地域交流窓口にアプローチする。地域の忙しい世代がメリットを得られるごみ減量・エコ活動を定着させ、地域力をより向上させる。</p>			